



### 総門について

参道をさらに進み、石の大鳥居をくぐると、見えてくる建築が、総門です。華麗な朱塗りの総門で巾約20mの石段の上に仰ぐようにそびえる鮮やかな色彩が、とても印象的です。角柱の脚柱は、12本で構成されており、杉の緑と相まって見事であります。総門をくぐってすぐ目の前にある手水舎で、しっかりと心身を清め参拝へ進みます。



### 楼門について

右に曲がると見えてくる建築が、朱塗りの楼門です。この楼門は、重要文化材に指定されています。また、掲額は、日露戦争時の名将である東郷平八郎の筆によります。なお、建造年は、元禄十三年です。



### 本殿について

本殿は、拝殿同様黒漆を基調とした極彩色の彩りです。また、屋根は、桧皮葺きです。屋根の形態は、拝殿は入母屋屋根ですが、本殿は、神明造りで、切妻形式の屋根に反りが入り、さらに棟には、妻側に千木が施され、その間に俵型の堅魚木が付けられています。この形式は、伊勢神宮と同じ形式になっていますが、堅魚木の数が、香取神宮は9ヶで伊勢神宮は10ヶとなっています。なぜ、数量が違うのかは、解りませんでした。皆さん各自で、調べてみてはいかがでしょうか。香取神宮の造営に関しては、その昔は、伊勢神宮同様に、20年に一度の造営が行われていたようですが、元禄13年造営以降は、部分改修が行われるようになったそうです。今回は、ここまでしたいと思います。次回は要石の話からです。



### 神殿(拝殿)について

神宮の創建は、神武天皇18年なる由が古文書に記されているが、現在の本殿は、元禄13年(1700年)徳川幕府の手によって造営され、昭和52年に国の重要文化財として指定されました。昭和15年に国費を以て造営され、現在の黒漆塗りを基調とし極彩色を取り入れた装いとなりました。尚屋根の桧皮葺きについては、平成25年(2013年)に葺き替え工事が完成しています。



要石(香取神宮) ▶